

## 第4学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時

場 所 4年〇組教室

授業者 〇 〇 〇 〇

### 1 主題名 きまりを守る「C-(11)規則の尊重」

### 2 ねらいと教材

#### (1) ねらい

一般的なきまりの意義やよさについて理解し、きまりを守ろうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

#### (2) 教材名

「日曜日のバーベキュー」(東京書籍 新しい道徳4)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳、内容項目C-(11)「規則の尊重」の「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」を受けている。高学年では「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」に発展していく。

児童が成長することは、同時に所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためにも約束や法、きまりを進んで守ることができるようにすることが必要である。社会のきまりがなぜあるのかを考え、個人や集団生活が安全かつ安心して生活できるためにあることを理解することを通して、それを進んで守ろうとする態度を育むことが大切であると考え、本主題を設定した。

#### (2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は3年時に「きまりじゃないか」の授業で、「集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分考えることの必要性」について、「黄色いかさ」の授業で、「集団生活を維持発展する上で、社会生活の中において守るべき道徳としての公德を進んで大切にすること」について学習してきている。また、学校や学級といった集団生活の中で、約束や決められたきまりを守り、大きな問題なく過ごすことができています。しかし、約束だから、きまりだからということで従っており、約束やきまりの意義を理解した上で守っているとは言えない。さらに、学校から離れた社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについてまで考えることは少ない。そこで、本時の学習を通して、身近な社会に目を向け、きまりを守らないことで感じることを自分との関わりで考えることで、きまりを進んで守ろうとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。

#### (3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、友達家族とバーベキューをした後のごみ捨ての時に起こった出来事についての話である。ぼくの家玄関先の自転車のかごには、ごみ箱代わりにお菓子の紙袋が頻りに捨てられており、それを

母がぶつぶつと文句を言いながら片付けていた。日曜日、ぼくは友達のみきおの家族と一緒に、川原にバーベキューに出かけた。みきおと遊んでいるとがけの下にごみがたくさん積んであるのが見え、二人はごみ捨て場だと思った。帰り際、母がごみを車に押し込んでいるのを見て、「ごみ捨て場があるから」と、みきおと一緒にごみを捨てに行く。ごみを捨てて引き返そうとした時、「ここにごみをすてるな！」という立て札を見付ける。ごみ捨て場ではないことに気付いた二人は顔を見合わせるが、みんなが待っているの、そのまま車に戻った。家に着くとまた、自転車のかごにごみが捨てられていた。ぼくは、それを片付ける母の姿を見ながら、川原に捨てたごみのことを思い出した。ごみ捨て場でないことに気付いたぼくが「どうしよう」と思いながらもそのままにしてしまった行動を通して、誰もが持つ人間の弱さを考えさせるのに適した教材である。

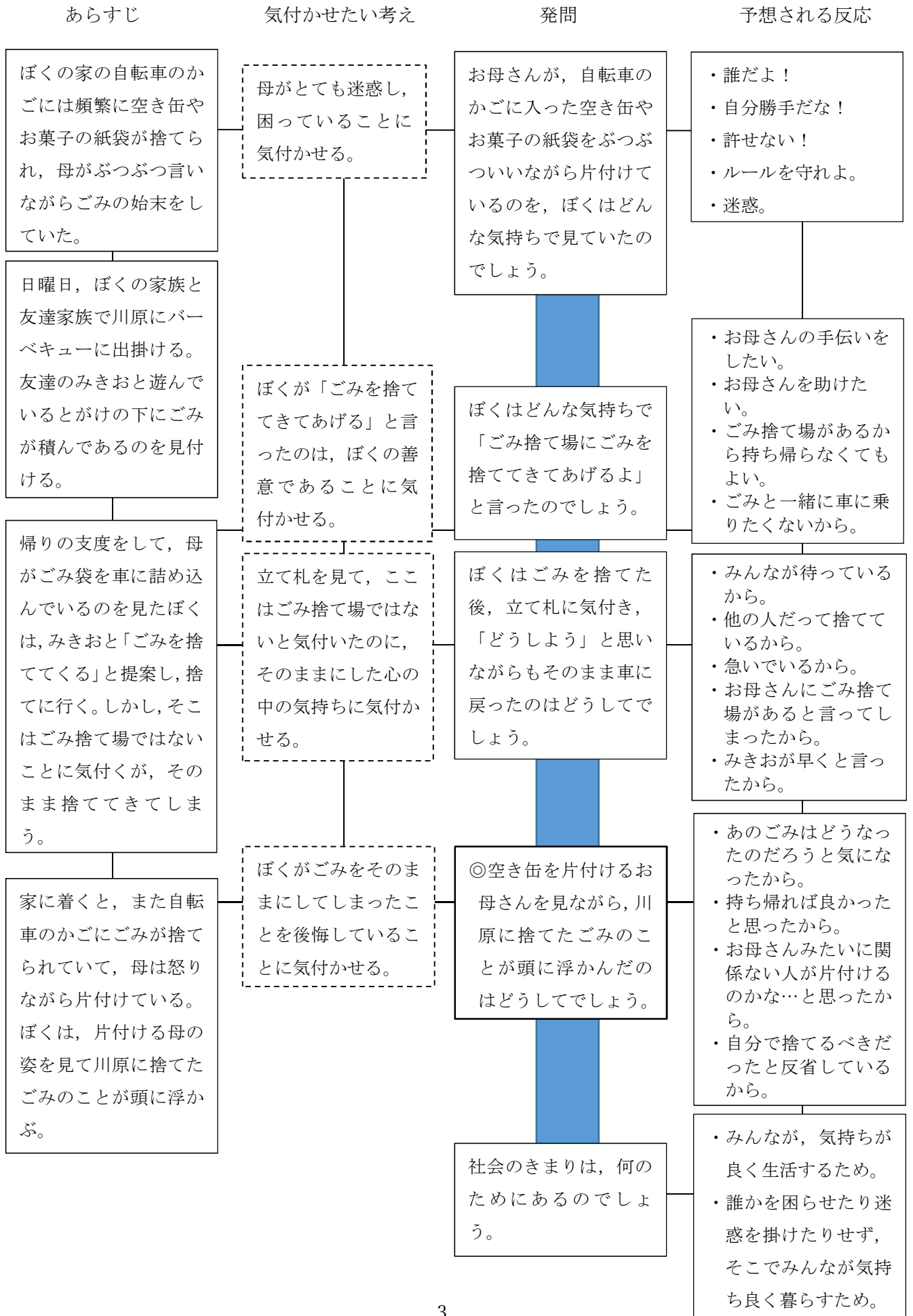
一般的な約束や社会のきまりを守るためには、それらの意義やよさについてしっかりと理解することが大切である。本時は、教材文をバーベキュー前、バーベキュー時、バーベキュー後の大きく3つに分けて考えさせる。バーベキューでの出来事を通して、ぼくの気持ちは大きく変わる。ぼくが川原でごみを捨てた場所がごみ捨て場ではないと気づき、「どうしよう」と思ったにも関わらず、そのままにしてしまった場面で、自分との関わりで考えさせ、人間の弱さなどについて多面的・多角的に考えさせたい。また、自転車のかごのごみと川原のごみを重ねて考えられるようにし、迷惑している母の姿からも、川原でぼくの取った行動が良くなかったということ、後悔しているということに気付かせることを通して、社会のきまりの意義やきまりを守ることのよさについて考えさせたい。

#### 4 教材分析・発問構成 . . . 別紙

#### 5 学習指導過程 . . . 別紙

#### 6 他の教育活動との関連 . . . 別紙

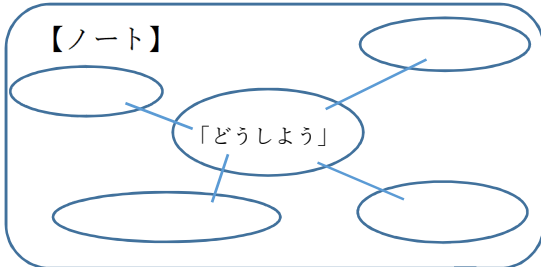
(別紙) 4 教材分析・発問構成



(別紙) 5 学習指導過程

	学習活動	指導上の留意点 (●補助発問)
<p>導入 5分</p>	<p>○主な発問 (◎中心的な発問)・児童の反応</p> <p>1 本時のねらいとする道徳的価値について問題意識を持つ。 (一斉)</p> <p>○みなさんは学校のきまりを守っていますか。それはどうしてですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・守っている。</li> <li>・守っていない。</li> <li>・時と場合による。</li> </ul> <p>2 課題をつかむ。 (一斉)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>社会のきまりは何のためにあるのか考えよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学校のきまりを守ることができているか、自分の生活を振り返らせることで、自分との関わりで考えられるようにする。そこから、公共の物や公共の場所にはきまりがあることを確認し、本時の課題である「社会のきまり」について、問題意識を持たせる。 (問) (自)</p> </div>
<p>展開 30分</p>	<p>3 教材の内容を把握し、登場人物の心情を考える。 (一斉)</p> <p>○お母さんが自転車のかごに入った空き缶とおかしの袋をぶつぶつ言いながら片付けているのを、ぼくはどんな気持ちで見ていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰だよ！</li> <li>・自分勝手だな。</li> <li>・許せない。</li> <li>・お母さん大変だな。</li> <li>・迷惑。</li> <li>・嫌だな。</li> </ul> <p>○ぼくは、どんな気持ちで「ごみ捨て場にごみを捨ててきてあげるよ」と言ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんを手伝いたい。</li> <li>・お母さんを助けたい。</li> <li>・ごみ捨て場があるから捨てればよい。</li> <li>・ごみと一緒に車には乗りたくない。</li> <li>・みんなが捨てているから捨ててこよう。</li> </ul> <p>○ぼくはごみを捨てた後、立て札に気付き、「どうしよう」と思いながらも、そのまま車に戻ったのは、どうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人も捨てていたから。</li> <li>・みんなが車で待っていたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・範読の前に登場人物の行動について簡単に押さえ、内容を理解しやすくする。</li> <li>・バーベキューでの出来事を通して変化するぼくの気持ちを考えながら聞かせる。</li> <li>・教材の最後にも同じ場面が出てくるので、ここでは、ごみとは関係のない母がとても迷惑して、困っているという思いを引き出したい。</li> <li>・実際にはごみ捨て場だと思った場所にごみ捨て場ではなかったが、ぼくは善意でごみを捨ててに行ってくると言ったことに気付かせる。</li> <li>・公共の場所である川原にはごみを捨ててはいけないという社会のきまりがあるということを押さえる。</li> </ul>

- ・急いでいたから。
- ・お母さんにごみ捨て場があると言ってしまったから。
- ・みきおが早く行こうと言ったから。



- ◎空き缶を片付けるお母さんを見ながら川原に捨てたごみのことが頭に浮かんだのはどうしてでしょう。
- ・あのごみはどうなったのだろうと気になったから。
  - ・持ち帰れば良かったと思ったから。
  - ・お母さんみたいに関係ない人が片付けるのかな…と思ったから。
  - ・自分で捨てるべきだったと反省しているから。

- 社会のきまりは何のためにあるのでしょうか。
- ・生活するみんなのため。
  - ・みんなが、気持ちが良く生活するため。
  - ・誰かを困らせたり迷惑を掛けたりせず、そこでみんなが気持ち良く暮らすため。
  - ・色々なことをみんなが楽しむため。

川原にごみを捨てることをいけないと知りながらも、そのままにしてしまった人間の弱さをウェビングマップを活用し、多面的・多角的に考えさせる。  
(多)

川原に捨てたごみをそのままにしてしまった人間の弱さを自分との関わりで考えさせる。  
(自)

- あなたは、この時のぼくの気持ちが理解できますか。
- あなただったらどうしますか。

<評価>

きまりの意義について自分との関わりで考えようとしていか。

(自)【道徳ノート・話し合い・発言】

- ・この光景は、母にとってはバーベキュー前と同じであるが、ぼくの心の中には、バーベキューでの後悔や罪悪感が残っていることに気付かせる。
- ・ぼくの心の中に、後悔や罪悪感が残っていること、母が片付けている姿と自分が捨ててしまったごみを知らない誰かが片付けていることを重ねて考えられるように、補助発問を用意する。
- 川原のごみの山は誰が片付けるのだと思いますか。
- ごみを持ち帰っていたら、どういう気持ちだったと思いますか。
- バーベキューは楽しかったと思いますか。

- ・前問で、ごみをそのままにしてしまったこと(きまりを守らなかったこと)を後悔していることに気付かせた上で、きまりの意義を感じさせる。

社会のきまりの意義について自分との関わりで考えさせる。  
(自)

<p>終末10分</p> <p>4 自己の生き方について考える。(個人)</p> <p>○この授業を通して、社会のきまりについて考えたことや感じたことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のきまりは私たちのためのものだと思います。だから、しっかり守ろうと思います。</li> <li>・社会のきまりはみんなが気持ちよく過ごすためにあるのだと思います。だから、きまりは守ろうと思います。</li> <li>・今までは、面倒だなあと思っていたけど、きまりがある意味が分かったのだから、これからはきちんと守ろうと思います。</li> <li>・きまりを守らない人のせいで、迷惑が掛かる人がいます。だからきまりは守るべきだと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の考えの深まりや変化に気付かせるために、導入での問題に触れ、導入時の自分の考えと比較する視点を与える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>社会のきまりは何のためにあるのかについて書かせることで、自分の生活を振り返り、自己の生き方についての考えを深めさせる。</p> <p style="text-align: right;">(自)(生)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;評価&gt;</p> <p>社会のきまりの大切さについて考え、それを守ろうとする意欲を持とうとしていたか。(自)(生)【ワークシート・発言】</p> </div>
--	---

(問)：問題意識を持たせる

(多)：多面的・多角的に考えさせる

(自)：自分との関わりで考えさせる

(生)：自己の生き方について考えさせる

【評価】

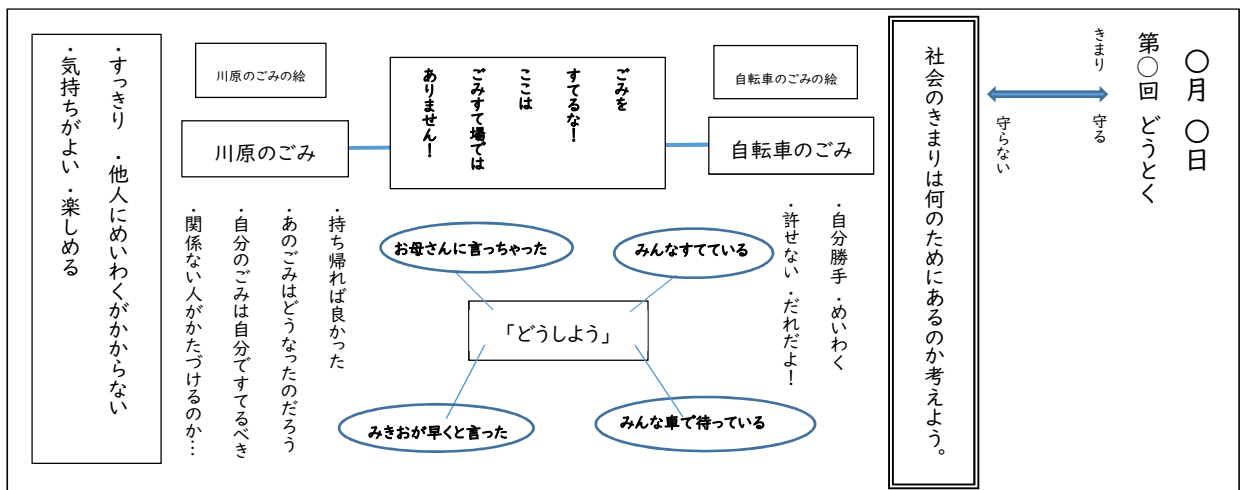
<児童の評価>

- ・川原に捨てたごみをそのままにしてしまった人間の弱さを自分との関わりで考えながら、社会のきまりを守ることにについて考えようとしていたか。(自)(生)【道徳ノート・話し合い・発言】

<教師側の授業評価>

- ・社会のきまりを守ることの意義やよさを、自分との関わりで考えさせることができたか。(自)【道徳ノート・話し合い・発言】
- ・社会のきまりは何のためにあるのかについて書かせることで、自分の生活を振り返り、自己の生き方についての考えを深めさせることができたか。(自)(生)【道徳ノート・発言】

【板書】



【準備物】

教師：教科書，人物絵，立て札絵，  
児童：教科書，道徳ノート，筆記用具

(別紙) 6 他の教育活動との関連

